

足立区にあった大名屋敷

所在地：梅田 6-28 佐竹稲荷神社



佐竹抱屋敷跡

江戸時代、この辺りには秋田藩主佐竹氏が所有した広さ約5200坪の大名屋敷がありました。大名屋敷には幕府から拝領した公的な屋敷と大名が私費で購入した抱屋敷の二種類あり、梅田の屋敷は抱屋敷でした。延宝8年(1680)には存在し、享保3年(1718)に8代将軍徳川吉宗が周辺を鷹場としたため取り壊しを命じるまでは、堀をめぐらす立派な屋敷でした。

この屋敷地の北東隅に位置し、屋敷神として祀られていたのが稲荷社です。現在も佐竹稲荷神社として、地域の人々に信仰されており、屋敷の面影を伝える唯一の遺構となっています。

屋敷の東側を日光道中・奥州道中が通っており、参勤交代などの際はここを通過して上屋敷(東京都千代田区内神田)に入りました。また、江戸で火災が起こると、秋田藩関係者の避難所としても利用されました。

文化財豆知識 足立区と佐竹氏

佐竹氏の抱屋敷地は、足立区登録有形文化財の「千住花又瀬崎辺之図」(郷土博物館所蔵)に描かれている梅田村の近くに、「佐竹大膳下屋敷」として注記されています。

足立区は、佐竹氏とのゆかりが深く、同じく登録有形文化財の花畑大鷲神社本殿も佐竹氏が建立したものです。足立区と佐竹氏には、意外なつながりがあったのです。

「佐竹大膳下屋敷」の注記

